

# 校長通信

東京都立戸山高等学校

校長 布施 洋一

## 「主体性」を求めて

昨年4月に戸山高校に着任してからあっという間に1年が経ち、無事2年目の春を迎えることができました。今年度も引き続き「校長通信」を書いていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平成30年度の入学式は、4月7日（土）に行われました。今年は桜の開花が例年になく早く、入学式の時にはすっかり散ってしまっていて、残念ながら桜吹雪の中での入学式とはなりませんでしたが、穏やかな晴天の下、8学級322名の新入生が、これから始まる高校生活への期待に胸を膨らませて、戸山生としての第一歩を踏み出しました。

入学式の式辞の中で、私は新入生に対して「よき学習者であれ」という話をしました。私が言う「よき学習者」とは、誰かから教えてもらうのを待つのではなく、自ら主体的に学ぼうとする学習者のことです。授業を学校生活の中心に据え、十分な予習・復習を行うこと、そのために十分な自主学習の時間を確保することは、高校生として当然のことですが、ただ漫然と授業を受け、先生が教えたことを覚えても、それだけでは何の意味もありません。大切なのは答えを覚えることではなく、知識を相互に関連付けたり、様々な情報を精査して考えたりすることで、なぜそうなるのかという理由、筋道を理解することです。特に新入生が3年後に受験することになる大学入学共通テストでは、大学教育を受けるために必要な能力として、学力の3要素（①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）が多面的・総合的に評価されます。これらの能力は、先生が教えてくれるのをひたすら待っているような受け身の学習態度では絶対に身に付きません。自ら課題意識を持って授業に取り組み、主体性を持って学んだことを自らの肥しにしていく能動的な姿勢が強く求められます。

人間の予測を超えた情報化・グローバル化がますます急速に進展していくであろうこれからの社会において、重要なキーワードとなるのがこの「主体性」であると思います。主体性とは「他者の助言を受け入れる素直さを大切にしつつも、自らの意志や判断に基づき、自らの目標や理想に向かって、自らの責任で行動していく」ことです。もちろん失敗することもあるでしょうし、時には恥ずかしい思いをしたり、プライドを傷つけられたりすることもあるかもしれませんが、それを恐れて人に言われたことだけをやっていただけでは、結局はそこそこのことしかできません。本当の意味で一流と言われるようなトップリーダーを目指すのであれば、自分がよいと思ったことは、多少のリスクや失敗を恐れずに実行に移すという「主体性」が必要です。これは戸山の伝統的な校風である「自主自立」にも通じるものであると思います。

戸山での学びは、授業を中心とした教科の学びに止まるものではありません。ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事等の特別活動や、部活動も大切な学びの一つです。新入生には、授業に本気で取り組むのはもちろん、部活動や委員会活動、学校行事等にも積極的に、かつ本気で取り組んでほしいと思います。「主体性」は授業の中でも育まれますが、特別活動や部活動の教育的効果も大変大きいものがあります。新入生が、戸山での学びの中で生きて働く知識や未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等を培い、自らの目標や理想を自らの力で現実のものとしていってくれることを心より願っています。